

2025.2.1

第1回くまがやごちゃまぜの会

熊谷市在宅医療支援センターの取り組み ～熊谷市の医療・介護・福祉の連携推進に向けて～

熊谷小児診療所



Since 1953

熊谷生協病院



熊谷市在宅医療支援センター
(熊谷生協病院)
コーディネーター
(医療ソーシャルワーカー)
松本 浩一

自己紹介



- 1977年12月生まれ 現在47歳
- 医療ソーシャルワーカー歴23年目
- 出身:埼玉県川口市 東洋大学社会福祉学科卒
- 卒後2年間 学童保育指導員
- 縁あって、医療生協さいたまへ入職。社会福祉士取得。
- 埼玉協同病院(川口市)5年、埼玉西協同病院(所沢市)3年、
埼玉協同病院・地域連携担当9年、熊谷生協病院6年目(在宅連
携拠点コーディネーター3年目)
- 家族構成:妻(44歳看護師)※共働き
子ども5人(保育園、小学生、中学生、高校生、大学生)
- 家事:毎日の食事担当、買い物担当、週1回掃除、etc
- 保育園の保護者会 会長2期目。

そんな事してたら『ヒルナンデス』に出演 ➡



熊谷市在宅医療支援センター業務

(2022年4月に熊谷市より受託、3年目)

- 医療関係者および介護関係者との情報の共有を支援すること
- 在宅医療及び介護連携の推進に関する相談を支援すること
- 在宅医療を希望する患者を関係職種につなぐために、本人・家族・包括・ケアマネからの医療相談を支援すること
- 在宅医療を行っている往診医の基本情報を登録し情報共有すること。
- 在宅医療及び介護連携に必要な事業を実施すること

埼玉県内33の「在宅医療連携拠点」内訳

○設置場所

医師会、公設内(医師会直轄):22カ所

訪問看護ステーション内:5カ所

病院内:6カ所 ※病院委託はまれ

※当院以外では、行田(行田中央総合病院)、上尾(上尾中央総合病院)、秩父(秩父市立病院)、春日部(春日部厚生病院)、幸手・杉戸(東埼玉総合病院)

○コーディネーターの数(1カ所に複数の拠点あり)

コーディネーター60人、事務員29人(2024.4月現在)

○コーディネーターの職種

看護師42名、社会福祉士10名、保健師2名、介護福祉士2名、
介護支援専門員2名、理学療法士1名、MSW1名

熊谷は社会福祉士1名(松本)で登録。他2名の相談員も対応

熊谷生協病院・熊谷生協ケアセンターの 事業と生協活動



医科・介護・生協活動が一体となって、
地域でくらしつづけることを支えます

医療

ときどき入院
ほぼ在宅

- 地域包括ケア、一般病床50床
- 療養病棟(在宅復帰機能強化型)55床

- 内科外来
- 小児科外来

- 病児保育
お迎え病児保育

熊谷市
在宅医療支援
センター
(受託事業)



名誉院長
熊谷市医師会
理事

- 在宅医療
- 在宅小児医療
管理数200



- 通所リハビリ(デイケア)

生協活動

- くらしサポーター
- 子ども食堂
- フードパントリー



介護

- ケアマネジャー
- 訪問介護
- 訪問看護
- 看護小規模多機能型居宅介護
- 定期巡回・随時対応型
- グループホーム等



埼玉県
訪問看護教育
ステーション
(県指定事業)

熊谷市在宅医療支援センター＝地域連携医療福祉相談室のご案内 ソーシャルワーカー(相談員)の自己紹介

私たちは皆様が安心して療養生活を過ごして頂くために、病気やけがによって起こる様々な問題についてご相談に応じています。秘密は厳守いたしますので、お気軽にご相談ください。相談はすべて無料です！

佐藤

- ・SW歴 8年目 ・AB型
- ・趣味:野球観戦「日本ハム」
「大谷翔平」

山口

- ・SW歴 14年目 ・AB型
- ・趣味:漫画ワンピースにはまっています！ ※過去卓球で全国レベル

熊谷市在宅医療支援センター

地域総合サポートセンター

地域連携室 / 医療福祉相談窓口 / 組合員サポート窓口



佐藤

山口

松本

松本

- ・SW歴 23年目 ・O型
- ・趣味:ラーメン大好き、
写真、川柳の投稿
- ・5人の子どもの父親



コーディネーター登録は私で他2名の相談員もサポート

熊谷生協病院：地域連携医療福祉相談室 相談員：松本、山口、佐藤

連絡先：048-577-7625 (直通電話)

048-524-3841 (代表電話)

048-577-7826 (直通FAX)

対応時間：平日8:30-17:00 土曜8:30-13:00

熊谷市内の在宅療養支援病院および在宅療養支援診療所

医療機関名	住所
藤間病院	熊谷市末広2-137
村上クリニック	熊谷市新堀字母袋島128
熊谷外科病院	熊谷市佐谷田3811番地1
熊谷生協病院	熊谷市上之3854番地
いのクリニック	熊谷市箱田一丁目12番24号
熊谷内科小児科たかしの森クリニック	熊谷市上奈良1296番地
あいざわクリニック	熊谷市桜木町1丁目195番地
籠原病院	熊谷市美土里町3丁目136番地
平田クリニック	熊谷市肥塚4丁目205番地
しぶや医院	熊谷市大原2-7-10
松井医院	熊谷市宮町2丁目60番地
善心会 Kクリニック	熊谷市柿沼334-1
あけとクリニック	熊谷市川原明戸569番地
せき内科医院	熊谷市宮前町2丁目133-1
石川クリニック	熊谷市肥塚1154番地3
清水内科	熊谷市上之1562番地1
三輪医院	熊谷市宮町1-155-1
在宅クリニック ハートフル熊谷	熊谷市銀座1丁目112番地3 AOSビル1階
大塚医院ファミリークリニック	熊谷市大麻生中郷前1396番
県西在宅クリニック熊谷	熊谷市村岡307-1
在宅クリニック熊谷南	熊谷市万吉984番地1
あい熊谷クリニック	熊谷市筑波2-48-1 2階

- 熊谷市内に22医療機関
- それぞれ規模や範囲は様々。
- 介護施設等を中心に訪問診療を行っているクリニックもあり。
- 24時間365日稼働している在宅専門クリニックもあり。



『熊谷市在宅医療支援センター』に市民や専門職種から相談がきたら、病状やニーズに合わせて紹介(コーディネート)する。

熊谷市在宅医療支援センターの活動①

○『くまねっと』の推進

- ・2022年6月～本格始動
- ・市内の医療介護福祉の多職種連携推進の為にICTを活用した二つのコミュニケーションツールの推進。
「Ayamu(あやむ)」: 市内の社会資源プラットフォーム
「MCS」: 多職種による双方向のコミュニケーション
- ・熊谷市長寿いきがい課と共に事務局として関わる。
「くまねっとMCS」は当院が事務局
- ・日常的に普及啓発を行う。

くまねっとAyamu



専門職種が活用

- ① 掲示板の活用。現在486施設が加入している
- ② 社会資源の掲載。1171件

2023年10月より
Ayamuは市民向けに
一般公開しました。
『くまねっとナビ』



くまねっとMCS



2024.1月のくまねっと説明会 WEB

**くまねっとMCS登録メンバーは
169人になりました！**

くまねっとMCS

投稿 相談

121人 +招待

メッセージを入力して下さい

松本 浩一
社会福祉士 他 (熊谷生協病院)

2/21 17:58

【研修会のご案内】
埼玉県医療整備課より以下の研修案内通知が来ましたので皆様にも周知させていただきます。飯島さん、AYAMUへの転記もお願いしていいですか？

特に現場の皆様から、精神・認知症患者への対応についてお悩みの声をいただくため、実際の現場で役立つ内容を講師からお聞きできる機会となります。

在宅医療・介護従事者向け「暴力・ハラスメント対策研修会」

M(みんなで)C(コミュニティに)S(参加しよう！)

MCSの活用イメージ

リハビリの様子を**動画ファイル**で共有

同職種間の**情報交換**(職種間の連絡網)
例)MSWなら空床情報の共有
例)Zoomを使った研修を設定

病院から調剤薬局に保険証や薬の情報を送りたい
→**写真を撮って送る**

訪問診療の患者の多職種連携を進める
医師、看護師、ケアマネ、訪問看護、ヘルパー、デイ、SW
が**垣根なく情報共有**できる

『くまねっとMCS』へ参加までの流れ

「くまねっとMCS 運用ポリシー」をご理解頂いた上でMCSをご利用される場合は、下記の通り利用申込書及び誓約書の提出をお願いします。
【必要書類】

様式2	くまねっとMCS 利用申込書兼変更届	熊谷市在宅医療 支援センターに提出
様式3	くまねっとMCSの 利用に係る誓約書	

◆書類提出から登録までの流れについて◆
①利用者とメールアドレス(ID)が決まりましたら、[様式2] [様式3]を記入の上、熊谷市在宅医療支援センターへFAXまたはメールでお知らせ下さい。
②熊谷市在宅医療支援センターにて一括登録します。随時、『くまねっとMCS』に招待していきます。

【連絡先】
住所：〒360-0012 熊谷市上之3854
熊谷生協病院内 熊谷市在宅医療支援センター(医・ホ)
TEL: 048-577-7625
FAX: 048-577-7826
mcp-saitama.or.jp

くまねっとMCS
運用ポリシー

熊谷市在宅医療支援センター
2023年1月27日 作成

OMCSサイトまたは
アプリからログイン
<https://about.medical-are.net/html/apple>
apple android

くまねっとMCS説明資料 抜粋

熊谷市在宅医療支援センターの活動②

○様々な基幹会議や地域ケア会議への参加

①「熊谷市医療介護連携推進及び認知症施策推進会議体制構築部会」の委員として参加。

- ・構成メンバー：医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護支援専門員、訪問看護ステーション、理学療法士、管理栄養士、包括支援センター、保健所、在宅医療支援センター、消防本部（事務局：長寿いきがい課）

- ・議題は「ACP普及活動」「くまねっと」「連携会議・学習会」等を中心にその時々課題について検討

②市が主催する「地域ケア会議の助言者」および、地域包括支援センター単位の「地域ケア会議」や「定例会」に参加。

③2023年度～「熊谷市生活支援体制整備協議会」にオブザーバー参加。

- ・社協CSWと長寿いきがい課が事務局。

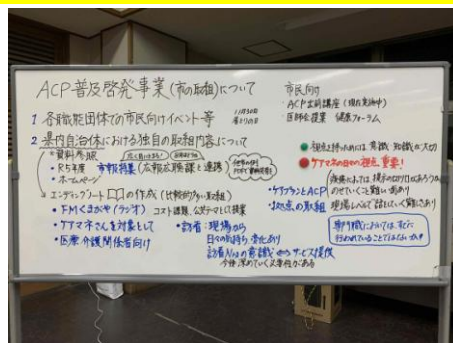
- ・委員は各地域包括支援センター担当者、民生委員、シルバー人材、長寿クラブ

- ・高齢者が自分らしく暮らすための様々な生活支援サービスの充実、

住民主体の地域づくりの推進。

顔の見える連携のひろがり、新たな専門職種との出会い

①熊谷市医療介護連携推進及び認知症施策推進会議体制構築部会



司会は熊谷市医師会地域包括ケア担当理事の大塚貴博先生。書記は熊谷市職員。

③熊谷市生活支援体制整備協議会



高齢者の足(移動)の問題。移動スーパーやデマンドタクシー等が議論されている。

②地域ケア会議や包括の定例会への参加



コロナ禍はZOOMで参加。最近是对面。アドバイザーとして発言する。

熊谷市在宅医療支援センターの活動③

○現場の声を活かして

- ・コーディネーターとしての強み。現場の「困った」を直に聴ける。
- ・現場でよく聴くケアマネの声
「病院の敷居が高い」「どこに連絡、相談したらよいのか分からない」
「退院時の情報をもっと早く欲しい」「入院した事を知らなかった」
「入院時情報提供書は忙しいからすぐに出せません」等
- ・病院のソーシャルワーカーや退院支援看護師の声
「全ての入院患者に関与していないから分からない事も多い」「退院カンファレンスは全員できないよ」「退院時の情報提供は看護サマリーでいいでしょ？」「転院調整や施設への退院が多いから、介護との連携はあまり重要視していない」

スムーズな連携を取るにはお互いを知ることから！
まず、ここから取り組もう！



①包括支援センター保健師部会企画(2023年9月)
 テーマ:『医療相談員の仕事を知ろう!』講師
 内容:MSWの仕事・ジレンマ、病院の種別・役割、ルールの説明等
 アンケート:「MSWの仕事理解した、板挟みなんですね、病院の経営も大変」



ケアマネ連絡会の会長:「こっちの研修でもやってよ」

②ケアマネ連絡会研修企画(2024年2月)
 テーマ:『医療介護の良質な連携を目指して医療ソーシャルワーカーの立場から』
 内容:上記+3病院のMSWがシンポジストとしてケアマネの質問に答える
 アンケート:「質問への回答内容が良かった、情報提供が大事、MCSの活用を学べた」



私:「年3回の研修会の1回はこのテーマでやりませんか?」

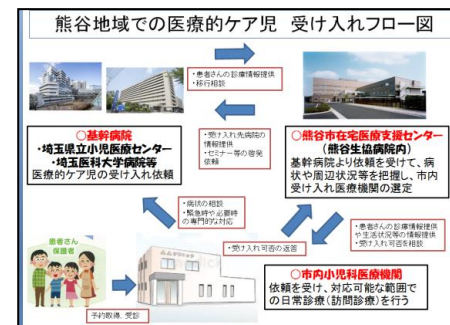


③ケアマネ連絡会 研修企画(2024年10月)
 テーマ:『教えてもっと知りたい 医療機関のこと』
 内容:市内11病院のMSWが参加して、「各病院の特徴報告」+「グループワーク」
 アンケート:「病院側と話ができるのは有意義、顔の見える研修で良かった、敷居が高いと思っていたけど、『何でも聞いて欲しい』と言われて気持ちが楽になった」

熊谷市在宅医療支援センターの活動④

○熊谷市内における「医療的ケア児」支援体制構築

- ・2022年6月、医師会担当理事・大塚医院ファミリークリニック院長先生より、市内の医療的ケア児の対応を考えたいと提案
- ・大塚先生が医師会内で医療的ケア児の診療についてアンケート実施
- ・熊谷市在宅医療支援センターとして、基幹病院からの相談窓口、コーディネート業務
- ・地域の関係団体との連携強化



太陽の園・茂木さん（熊谷市の医療的ケア児等コーディネーター）と懇談

- ・2022年10月『熊谷市医ケアキッズ支援連携会議』発足
- ・2023年も継続。当院のMSWが医療的ケア児等コーディネーターの資格を取得し質の向上も図る

2022.11月 埼玉県立小児医療センターへ訪問



埼玉県立小児医療センター 外来師長さん

埼玉県立小児医療センター
血液腫瘍科 医長 福岡先生

大塚ファミリークリニック大塚先生

埼玉県立小児医療センター
総合診療科長 田中先生

埼玉県立小児医療センター 相談員篠崎さん

埼玉県立小児医療センター 連携センター 紫藤さん

太陽の園・医ケア児コーディネーター 茂木さん

熊谷市在宅医療支援センター 松本

2023.9月支援センターかけはし
埼玉医大総合医療センターへ訪問



山口

支援センターかけはし・
医ケア児コーディネーター 丹野さん

松本

『熊谷市医ケアキッズ支援連携会議』の様子。昨年度からスタート。市内の医ケア児に関わる行政(市役所、保健所、母子、保育所等)、放課後デイ、医療、特別支援学校など



事例紹介



○ケース概要 Aさん80代男性

- ・病名：脱水、体動困難、おそらく統合失調症（未治療）
- ・地域包括支援センターより紹介
- ・世帯構成：独居。生活保護。他市に妹がおり、かろうじてキーパーソン。

○介入までの経過

- ・数日前から急に体調悪くなり体動困難。這って移動。トイレもできず糞尿まみれ。水分も食事もとれず。エアコンもなく、自宅もかなり乱雑な状況。
- ・行政職員の介入もあり、2度救急要請したが本人が泣いて拒否している。
- ・自宅で看取るしかないとなり、介護保険主治医意見書の目的も含めて訪問診療で対応して欲しいと。
- ・翌日、訪問診療に医師、看護師と共に同行。「けっこうです。お帰りください。」診察拒否。有事の際に看取り往診の方針。最低限、食事や掃除などの支援を行えるよう、グループのヘルパー事業所に依頼。
- ・2ヶ月後。食事摂取ができるようになり、回復傾向。褥瘡形成もあり訪問看護介入。
- ・Aさん「暖かい心で……。嬉しいです。愛しています」コミュニケーションがとれる！
- ・介入から約半年後、自宅でお看取りした……

まとめ『コーディネーターの楽しさ』

○地域の様々な仲間と繋がれること

課題はたくさんあるけど、

多職種連携で解決できることがある！

○ソーシャルワーカー的に

「ミクロ・メゾ・マクロ」の支援を実践

個別(ミクロ)支援(ひとつの困った)

集団(メゾ)支援(それって地域課題)

地域・社会(マクロ)支援(制度改善、政策提言)

ソーシャルワーカーの醍醐味＝ソーシャルアクション！！

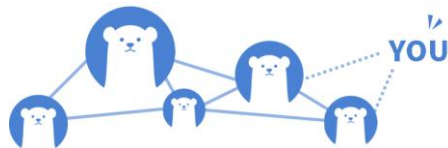
2/14(金)医療介護連携推進研修会

○多職種で熊谷市の「医療・介護・福祉の連携」についてグループワークを行う企画

○『ごちゃまぜの会』に着想を得ています

○医療介護の専門職だけでなく、多様な支援者(NPO、民間企業、ボランティア、地域住民)とつながりコラボしていくことが求められる

多くの方の参加をお待ちしております!



令和6年度 医療介護連携推進研修会 (第2回)

2040年の熊谷はどう変わる?

～地域住民と多職種で作る未来のケアの実現のために～

10月18日に行われました第1回研修会において、『医療・介護・福祉連携が求められる背景と関係者に期待される役割』というテーマで講師の川越雅弘先生より、地域包括ケアシステムや地域共生社会の根底と職種間の役割や連携について改めて学ぶことができました。また、私たち専門職と多様な支援者(NPO、民間企業、ボランティア、地域住民)とのつながりを作っていく事も示唆されました。

今回の研修ではそれを発展させていく為に、皆様主体的に参加して頂きたく、多職種によるグループワーク形式で取り組みたいです。皆様と楽しくポジティブにディスカッションができればと期待しております。また、後半では懇親会も企画して「多職種連携」「顔の見える関係」をさらに深めていきたいと考えております。多くの皆様のご参加をお待ちしております!!



前回研修会の様子

日時：令和7年2月14日(金)

第1部 19時～20時20分 第2部 20時30分～21時30分

場所：熊谷市立商工会館 大ホール

形式：第1部 現地集合によるグループワーク

第2部 懇親会

※懇親会参加者は参加費2000円

参加対象者：市内の医療・介護・福祉に関わる全ての職種

申し込みはこちら



多職種で『熊谷の未来』を語り合いましょう!!

主催

熊谷市医師会、熊谷市

熊谷市在宅医療支援センター

期限：2月7日(金)

すべては熊谷市民が安心して暮らしていける 医療・介護・福祉の連携実現の為に！！



2024年3月熊谷市MSW連携会議の皆さん



2024年10月医療介護連携推進研修会後
熊谷市職員と多職種の皆さん



2024年2月 ACP事務局会議後
医師会先生達と長寿生きがい課の皆さん



2024年11月ごちゃまぜの会立ち上げ決起集会

仲間と共に…！